

viscount®

ヴァイカウントクラシックオルガン

Jubileum 161

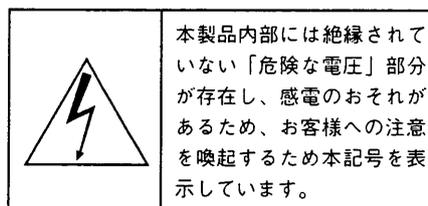
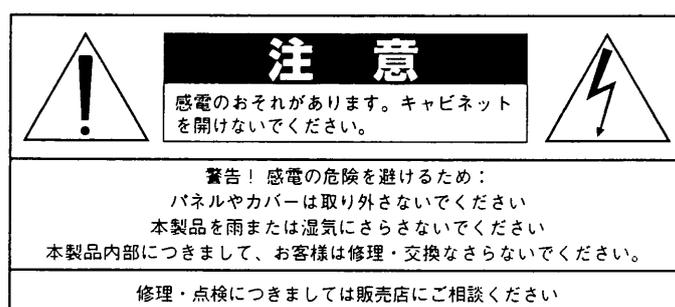
ジュビレウム161 取扱説明書

はじめに

このたびは、ヴァイカウントクラシックオルガン、ジュビレウム161をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ジュビレウム161は、伝統的なパイプオルガンの魅力を最新の電子テクノロジーによってあますところなく再現したクラシックオルガンです。ジュビレウム161の多彩な機能をスムーズに使いこなし、オルガン演奏を心ゆくまでお楽しみいただくために、ぜひこの取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も、ご不明点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

※この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。

安全上のご注意…ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をお読みください。



「火災、感電のおそれ、あるいは人体への危害に関する注意事項」

警告：本製品のご使用にあたっては、以下の点に注意してください。

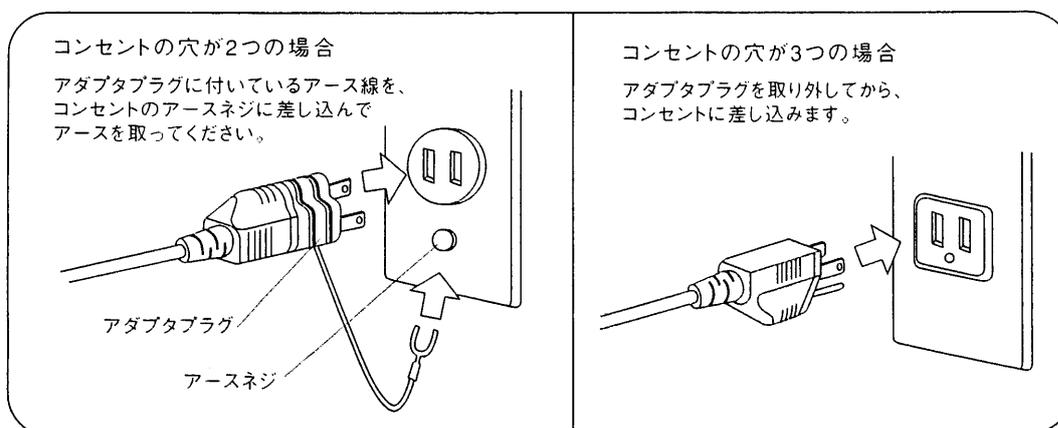
- 1) 本製品を使用する前に取扱説明書をよくお読みください。
- 2) お子様の近くで使用する場合には、ケガ防止のため十分な注意を払ってください。
- 3) 本製品は水回りでは使用しないでください。例えば浴槽、洗面台、台所の流し付近、濡れた床の上、あるいはプールの近く、その他これに類する場所では使用しないでください。
- 4) 本製品は、単独もしくはアンプ、ヘッドホン、スピーカーと組み合わせて使用した場合、過大な音量により聴力障害を引き起こすおそれがあります。過大な音量、または不快感を招くような音量での長時間の使用は避けてください。
- 5) 本製品はラジエーター、熱器具、その他熱を発生する製品から離して設置してください。
- 6) 長時間ご使用にならない場合には、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 7) 本体に物を落としたり、液体が流れ込まないように十分注意を払ってください。
- 8) 以下の場合、サービス担当者が本製品の修理・点検を行います。
 - a. 電源コードまたはプラグが破損した場合
 - b. 製品に物が落ちたり、液体が流れ込んだ場合
 - c. 製品が雨にさらされた場合
 - d. 製品が正常に作動していない、あるいは演奏状態に著しい変化が生じた場合
 - e. 製品を落としたり外装が破損した場合

目 次

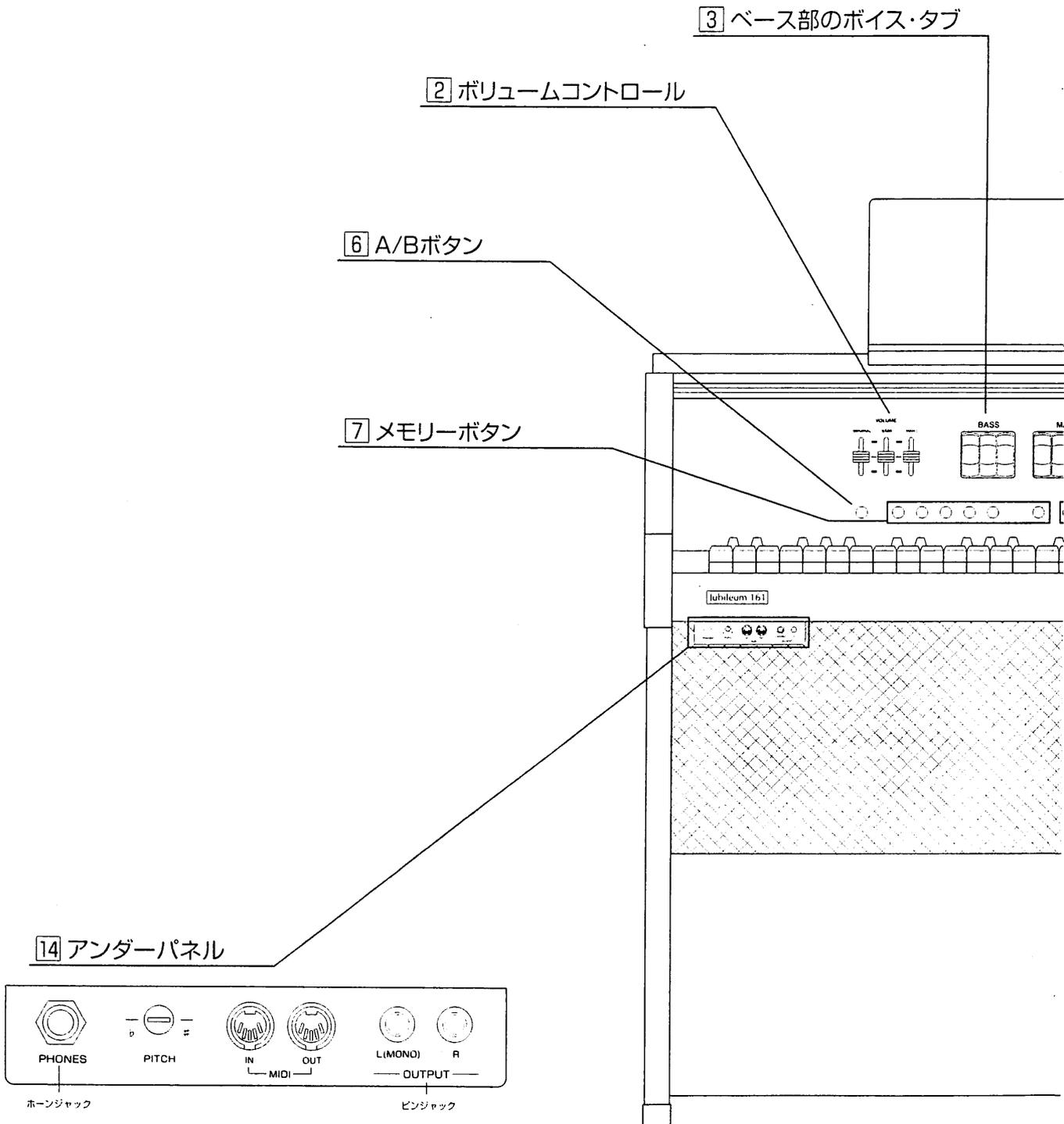
パネル図	P4		
コントローラーと接続端子	P6~8		
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1 オン・オフ スイッチ 2 ボリューム・コントロール 3 ベース部のボイス・タブ 4 MAN I 部のボイス・タブ 5 MAN II 部のボイス・タブ 6 A/Bボタン 7 メモリーボタン 8 特別ボイス </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 9 スプリット機能 10 鍵盤の移調方法 11 リバーブ(REVERB) 12 デモ曲 13 SET/PGボタン 14 アンダーパネルの接続端子 15 エクスプレッション・ペダル </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 1 オン・オフ スイッチ 2 ボリューム・コントロール 3 ベース部のボイス・タブ 4 MAN I 部のボイス・タブ 5 MAN II 部のボイス・タブ 6 A/Bボタン 7 メモリーボタン 8 特別ボイス 	<ul style="list-style-type: none"> 9 スプリット機能 10 鍵盤の移調方法 11 リバーブ(REVERB) 12 デモ曲 13 SET/PGボタン 14 アンダーパネルの接続端子 15 エクスプレッション・ペダル 	
<ul style="list-style-type: none"> 1 オン・オフ スイッチ 2 ボリューム・コントロール 3 ベース部のボイス・タブ 4 MAN I 部のボイス・タブ 5 MAN II 部のボイス・タブ 6 A/Bボタン 7 メモリーボタン 8 特別ボイス 	<ul style="list-style-type: none"> 9 スプリット機能 10 鍵盤の移調方法 11 リバーブ(REVERB) 12 デモ曲 13 SET/PGボタン 14 アンダーパネルの接続端子 15 エクスプレッション・ペダル 		
MIDI	P9		
MIDIへの接続			
コントロールチェンジ			
プログラムチェンジ			

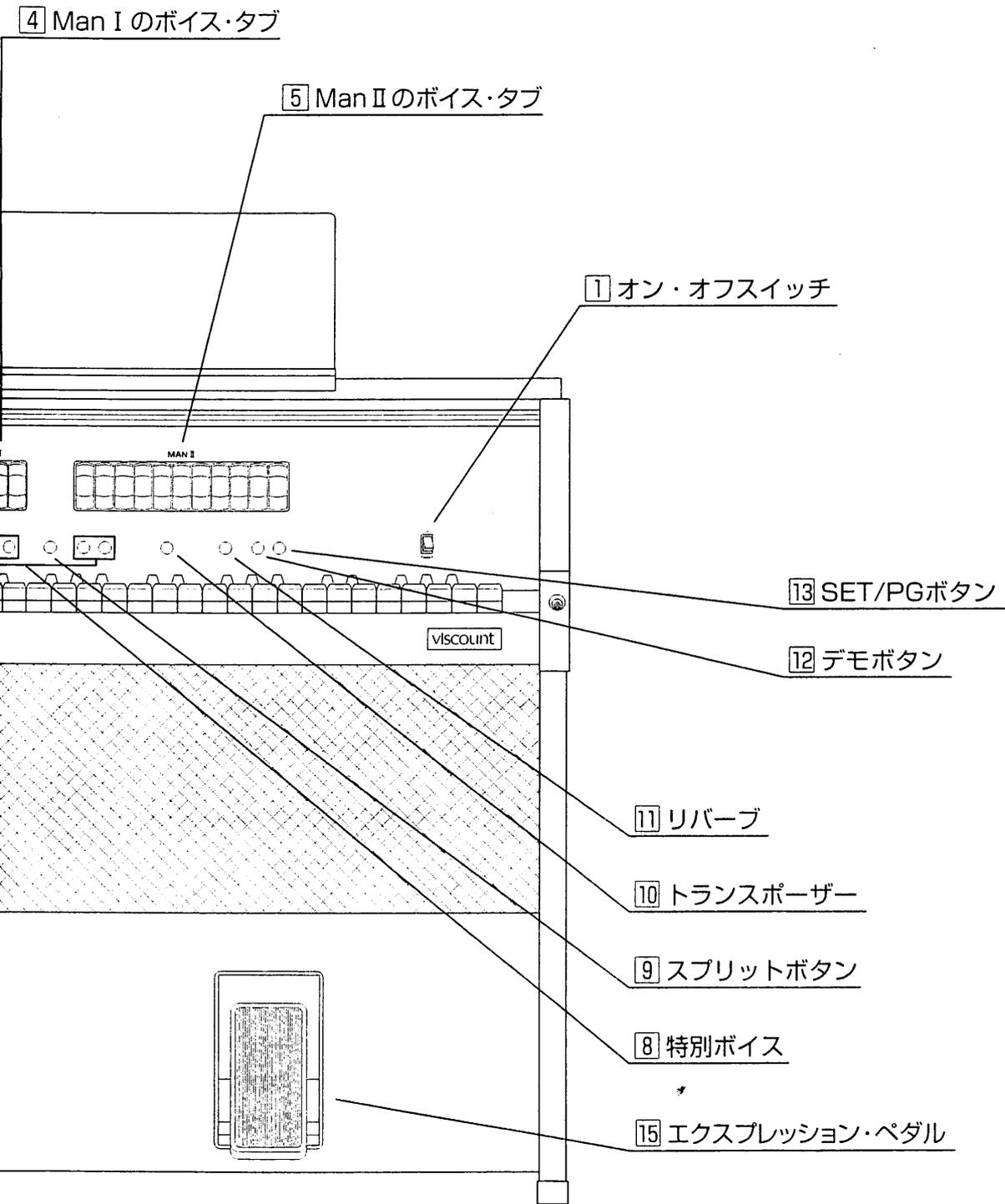
安全上のご注意 (追加)

- 1) 十分な換気の為、機器は壁から 5 cm以上離して設置して下さい。
- 2) 機器設置の際、換気穴を塞がないようご注意ください。
- 3) 機器上に裸火(とうそく等)を置かないで下さい。
- 4) 機器上に水の入った花瓶等を置かないで下さい。
- 5) 機器は電源コンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くように使用して下さい。
- 6) アース接続は、必ず電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。又、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行って下さい。



JUBILEUM 161





コントローラーと接続端子

1 **オン・オフ スイッチ**：本体の電源を入れます。その後、必要に応じて音量を調節します。

<注意>本製品に電源を入れる前に、ボリューム・レバーを低めに設定し、全体音量が最大になっていないことを確認して下さい。電源を切る時は、アンプの音量を下げた後に、電源を切って下さい。

2 **ボリューム・コントロール**：ジェネラル(GENERAL)、バス(BASS)、MAN Iのボリュームコントロール・レバーがあります。

- ・ジェネラル：全体ボリュームを調整します。
- ・バス：バス部のボイスのボリュームを調整します。(最低音から24音のみ単音で鳴ります。)
- ・MAN I：MAN I部のボイスのボリュームを調整します。

<注意>バスとMAN Iのボリューム・コントロールは必ずジェネラルをオン(1以上)にして行って下さい。

3 **ベース部のボイス・タブ**：ここにはベース部のボイス・タブが3つあります。ベース部のボイスは、単音で最低音から24音のみ鳴ります。

4 **MAN I部のボイス・タブ**：ここにはMAN I部のボイス・タブが4つあります。

5 **MAN II部のボイス・タブ**：ここにはMAN I部の10個のボイス・タブとトレミュラントがあります。

6 **A/Bボタン**：このボタンを使うと、オルガン全体のサウンドをロマンティック=A、とバロック=Bに切り替えることができます。この選択の結果は全ボイスに影響します。そのため、あるセクションのレジスターにロマンティックタイプのサウンドを、別のセクションのレジスターにバロックタイプのサウンドを利かせることはできません。

7 **メモリーボタン**：1～5のそれぞれに、レジストレーションや特別ボイスのメモリーができます。メモリーをプログラムするには、まずボイスの組み合わせ(レジストレーション)を作ります。次いで、セットボタン(SET/PG)を押したまま、1～5のどれかを押します。ここには0と表示されたボタンがあります。これを押すと、メモリーボタンを押す前の手動設定のレジストレーションに戻ります。

8 **特別ボイス**：4つの特別ボイスを選ぶこともできます。第1手鍵盤のコワイア(CHOIR)とストリングス(STRINGS)および第2手鍵盤のピアノ(PIANO)とスピネット(SPINET/小型チェンバロ)です。これらの特別ボイスは、それぞれのスイッチを押すことで作動します。

なお、特別ボイスはオルガンの他のボイスと同時に演奏することはできません。あるレジストレーションを弾いている時に、いずれかの特別ボイスのスイッチを入れると、レジスターの演奏が止まります。特別ボイスのスイッチを切れば再度演奏が始まります。また、他のセクションの特別ボイスを同時に演奏することはできますが(たとえばピアノとストリングス)、同じセクションにある特別ボイス(たとえば、ピアノとスピネット)を同時に演奏することはできません。

9 スプリット機能：“0”スイッチが入っているか、メモリーが作動している状態でスプリット・ボタンを押すと、鍵盤が、左から24番目のキーを分割点(split point)として2つのセクションに分かれます。これで、MAN I と MAN II のボイスを独立して使用できます。ベース部のボイスは、分割点の左側の最低音(単音)でのみ発音します。それぞれのセクションのボリュームは、ボリューム・レバー(VOLUME)で全体を調節して、MAN I のボイスとベース部のボイスとのバランスをとります。

MAN I についてはストリングスとコワイアを、MAN II についてはピアノとスピネットの特別ボイスを選択することができます。詳しくは特別ボイスの項を参照下さい。

分割点の変更方法：以下の手順によって鍵盤上の分割点を変更することができます。

・スプリット・スイッチを押したまま(そのLED灯が点滅する)、スプリットを設定した鍵盤のキーを押します。次いでスプリット・スイッチを離します(LED灯が点灯する)。これで新しい分割点を設定されました。

・分割点を左から25番目以後のキーより先に設定した場合、MAN I のストリングスとコワイアは1オクターブ低くチューニングされます。また分割点を高い(トップ)Cの音に設定した場合には、MAN I の音色を全鍵盤で演奏することができます。

<注意>ジュビレウム161のパネルLEDが薄暗く点滅することがありますが、本体上の仕様です。

10 鍵盤の移調方法：ジュビレウム161の移調範囲は-4、-3、-2、-1、0、+1、+2です。

トランスポージャーはトランスポーズ・スイッチ(TRANSPOSER)を押して選択します。移調の数値はスイッチの上のLEDランプで表示されます。

11 リバース(REVERB)

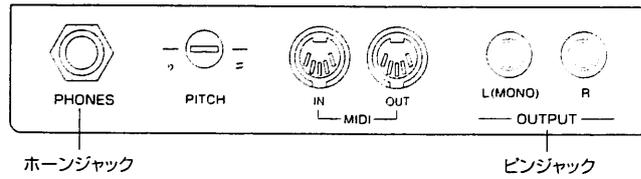
第1、第2、第3の3種のリバース効果のうちいずれかを選び音に厚みを加えることができます。数が大きくなるにしたがって、残響効果が大きくなります。

12 デモ曲：ジュビレウム161にはデモ曲がひとつプリセットされています。デモ曲を演奏するには、各セクションとも少なくともひとつのボイスが入っていることを確認した上で、デモ・スイッチを押します。デモ曲演奏中にもボイスのレジストレーションは変更することができます。演奏を止めるには、再びデモ・スイッチを押せば、演奏は止まります。

<注意>デモ曲演奏中は、特別ボイスを選択することはできません。

13 SET/PGボタン：メモリーの設定等に使用します。

14 アンダーパネルの接続端子



ここには次のものがあります

- **PHONES** : ヘッドフォンの接続端子です。(ホーンジャック)
- **PITCH** : ピッチの微調整ができます。
納品時のジュビレウム161はA=440Hz(ピッチノブは中央に位置しています)に初期設定されています。
- **MIDI IN OUT** : MIDIのインとアウトです。
MIDI IN : 本機が他のMIDI機器からMIDIデータを受信するための端子。
MIDI OUT : 本機からMIDIデータを送信するための端子。
- **OUTPUT** : オルガンを外部スピーカーに接続する時に使います。(ピンジャック)
1 または 2 個のオーディオジャックを出力端子L/Rに接続します。
同様に外部スピーカーに接続します。

15 エクスプレッション・ペダル : 全体の音量をコントロールします。

MIDI

MIDIへの接続：MIDI(ミディ)はMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データを交換するための世界共通の規格です。本製品はMIDI国際規格に準拠しており、装備されたMIDI端子を使って、どんなMIDI機器にも接続することができます。たとえば、カントルムで演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、ジュビレウム161で市販のMIDIデータを再生することができます。

接続には、MIDIケーブル(5ピンのDIN)が必要です。

<注意>MIDI機器には16チャンネルあり、チャンネルごとに接続した機器とデータのやりとりを行えます。それによって最大16台までのMIDI機器を個別にコントロールすることができます。また当然ながら、接続したMIDI機器同士でチャンネルが違えばデータのやりとりはできません。両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルに合わせる必要があります。

MIDIデータをジュビレウム161と外部MIDI音源で同時に再生する場合、MIDI端子をシーケンサーのMIDI OUTからカントルムのMIDI IN端子まで、さらに別のケーブルをオルガン本体のTHRU端子から外部MIDI音源のMIDI IN端子まで接続します。各セクションとも、どのチャンネルでも情報を受信できるようプログラムすることができます。チャンネル16はオルガン全体に適用される情報を送受信する「グローバル」です。この情報はオルガン全体に適用され、本機のメモリーや音量のプログラムチェンジに関連します。

すべての機能がMIDI経由で完全に作動するよう、スプリット・スイッチが切れているか確認してください。

MIDI端子で送受信される情報は以下の通りです。

・ノートに関する情報(オン・オフとボリューム)

<注意>ダイナミックやアフタータッチ等を表示するコードを送信したり実行することはできません。

コントロールチェンジ：送受信されるコントロールチェンジは以下の通りです。

- a) マスターボリュームはチャンネル16(グローバル)で送信されます。
- b) MAN I、MAN IIのボリュームコントローラー。
- c) 3種のリバーブ (数値0＝エフェクト・オフ、数値1＝リバーブ1オン、数値2＝リバーブ2オン、数値3＝リバーブ3オン)
- d) MANのトレモロレジスターのスイッチ開閉

プログラムチェンジ：プログラムチェンジのコードは、本機のMIDI OUTからチャンネル1にのみ送信できます。

MIDI OUTを介して接続される外部機器にプログラムを呼び出すには、以下の操作を行います。

・プログラム・チェンジボタン(フロントパネルの右端)を押しながら、鍵盤でいずれかのキーを押します。

各キーには、最大61件までのプログラムチェンジの連続番号が割り当てられています。

<注意>受信機がチャンネル1上で選択されていない場合は、作動しません。

資料 MIDIインプリメンテーションチャート

ジュビレウム161

バージョン：1.0

機能		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	デフォルトチェンジ	1-2-4-16	1-2-4-16	デフォルト メモリー済
モード	デフォルト メッセージ 代用	×	モード3	ベース部はモノラル
ノートナンバー	トゥルーボイス	32-99	32-99	ベース部の 移調範囲32-66を含む
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ	キー チャンネル	×	×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロールチェンジ		○	○	C64ダンパーは 第2手鍵盤に従う C7 C91はリバーブ種類 C92はトレモロ種類 (第2手鍵盤部のみ)
プログラムチェンジ		0-127 (チャンネル1のみ)	×	ジェネラルメモリー0-5は 専用チャンネル16で受信
システム・エクスクルーシブ		○	○	
システム(コモン)	ソングポジション ソングセレクト チューン	×	×	
システム(リアルタイム)	クロック コマンド	×	×	
オグジュアリーメッセージ	ローカルオン・オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	×	×	

モード1：オムニ・オン、ポリ
モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ
モード4：オムニ・オフ、モノ

○=イエス
×=ノー

viscount®
CLASSIC ORGANS

発売元

ヤマハ株式会社 国内楽器営業本部 施設営業推進室

ホームページアドレス：<http://www.yamaha.co.jp/half/>

東京	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 (日本生命高輪ビル)	TEL.03-5488-1676
大阪	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 (心斎橋ブラザビル東館)	TEL.06-6252-5753
名古屋	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28	TEL.052-201-5145

総輸入元

ヤマハミュージックトレーディング株式会社

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸薬師1-28-5 蛸薬師Fビル7F TEL.03-5641-1031

ホームページアドレス：<http://www.y-m-t.co.jp>

2004年1月作成
